



# 式中だより

388号

令和2年(2020年)

7月29日(水)

発行 式根島学園 式根島中学校

04992(7)0017

## 「1学期を終えて」

副校長

この1学期は、入学式後に2ヶ月の休校、修学旅行の延期、部活の大会もなくなり残念な事がたくさんありました。それでも6月の学校再開から生徒たちは、授業や生徒会活動、部活動に積極的に取り組み今日までの2ヶ月という短い期間でしたが、充実した学校生活を過ごしました。地域・保護者の皆様には、日頃より生徒を見守っていただき感謝しております。8月1日から例年より約3週間短い期間の夏休みとなりますが、生徒たちは学習や部活動、遊びにと元気に過ごすと思います。今後ともよろしく願いいたします。

～7月24日～

さて先週の7月24日はスポーツの日、本来であれば、東京オリンピック2020の開会式が開催される日でした。世界が感動するような祭典が始まり、白熱する競技が展開されていたと思いますが、コロナ感染症により来年に延期となりました。6月に入り多くのアスリートが活動を再開したことが、新聞やニュースで伝えられました。その中で1人の選手の決断が伝えられました。昨年ラグビーワールドカップで日本中に感動をあたえた日本代表の福岡堅樹選手です。福岡選手は本来であれば2020年のオリンピックに出場し夢である医師を目指すという計画だったそうです。しかし、コロナ感染症の影響でオリンピックが延期となり苦慮した結果、後悔しない人生を生きたいという思いがあり「応援してくれる方々には申し訳ないと思いますが、自分の決めた道を貫きたかったのです」と語り、代表引退を決意しました。コロナ感染があたえたオリンピック延期の影響の大きさとその中でも自分の意志を貫く力強さを感じました。福岡選手以外にも、けがや年齢などの理由で代表を引退する選手、1年後を見据えてトレーニングに励む選手など、多くのアスリートたちの様子が伝えられました。来年のオリンピックで福岡選手のプレーを見られないのは残念ですが、1年後、日本代表のアスリートたちが素晴らしいパフォーマンスで日本に熱狂と感動、勇気をあたえてくれるはずです。1年後を楽しみにして今、私たちができる事をやっていかなければならないとあらためて感じました。

## 8・9月の予定

生活目標：けじめのある生活を送ろう

保健目標：防災について考えよう

給食目標：栄養素のはたらきを知ろう

『式中だより』は、毎月25日をめどに発行していきます。

8/24	月	始業式	SC	14	月	生徒朝礼 染め出し磨き
9/1	火	朝礼 安全指導 発育測定		16	水	生徒会選挙 健康診断
2	水	避難訓練		17	木	SC
4	金	生徒委員会		18	金	SC
7	月	オリパラ朝会		25	金	定期考査Ⅱ
10	木		SC	26	土	定期考査Ⅱ 土曜授業(給食なし)
11	金		SC	29	火	生徒委員会

## 第4回 式根島未来会議

式根島未来会議担当

「進学等で都内に出て帰ってきても、私たちの自慢の式根島が残っているように、式根島の未来を支える私たちも頑張っていきましょう。」

これは、昨年度までの式根島未来会議の学習を振り返った9年生の言葉です。

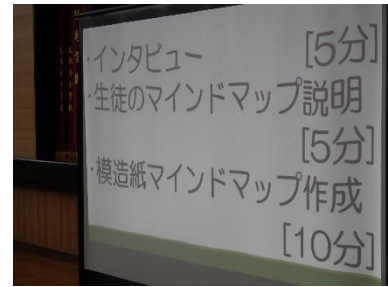
今年度も、式根島中学校では、総合的な学習の時間の学習として式根島未来会議を行います。新型コロナウイルス感染拡大防止対策を図りながら、式根島の未来について、島民の方々と探究していきたいと考えています。

今年度の活動テーマは、「つなぐ・つなげる～式根島の未来のためにできること～」です。

7月22日には、「式根島未来会議 参加型授業参観（カフェトーク）」を行いました。今回は、島民の方々への積極的な呼びかけを行うことが叶わず、残念でした。しかしながら、御来校いただいた島民の方々と生徒、教員で「式根島の可能性と課題」についてマインドマップを作成しながら意見を交わすことができました。

今後も、生徒の「ふるさと式根島を愛する気持ち」をより深められるような式根島未来会議にしていきたいと考えています。

3月には、1年間のまとめの発表会を予定しています。新型コロナウイルスが終息し、多くの島民の方々にお越しいただけることを願っています。



## 第8学年 島内職場体験 中止のお知らせ

毎年、島内の様々な事業所の皆様に御協力をいただき、実施をしましてまいりました島内職場体験ですが、今年度は感染症対策のため中止とさせていただくことになりました。来年度以降、状況を見てまた実施をしていきたいと思っています。その際には御協力何卒よろしくお願ひいたします。

## 波ようねりよ

社会科

「中学30年生。」 私が中学校に入学してから30年目の春を迎えた。

中学3年の卒業文集。10年後の自分という項目に、私は「普通に働いていると思う。」と書いた。実際、25歳の3月の私は、インドの混沌と喧騒の中にいた。「普通に」でもなく、「働いて」もいなかった。ガンジス川に運び込まれる屍を来る日も来る日も眺めていた。中3の私には顔向けできそうにないが、あれはあれで人生において大切な時間だった。

今は、普通が普通でない毎日が続いている。普通とは何か分からない、不確かな時代にいる。思い描いた未来もいいが、それだけがすべてではないと中学30年生の今思う。だってほら、30年前に想像だにできなかった日々が、ここにある。大切な家族と素敵なこの島で、親切な人々に囲まれ暮らしている。そして、素直な中学生たちと青春の振り返りを一緒に歩んでいる。中学50年生の春も楽しみだ。